

令和 5 年度

## 学校評価の概要

- 1 学校評価の実施状況
- 2 自己評価（教職員による評価）
- 3 外部アンケート（保護者・児童生徒）

資料：自己評価・外部アンケートの結果（詳細）

沖縄県立はなさき支援学校

## 令和 5 年度学校評価の実施状況

### 1 自己評価を実施した人

	教諭(実習助手・養護教諭)	事務現業	計
実施人数	73人	11人	84人

### 2 保護者・児童生徒アンケート

	保護者	生徒	計
実施人数	77人	65人	142人

### 3 学校評価結果の公表方法等

自己評価	ホームページへの掲載
学校関係者評価	ホームページへの掲載

### 4 令和 5 年度の学校評価で明らかになった課題

・児童生徒数の増加による教室不足等の状況が継続している。

## 2 自己評価

### 結果の概要

(教職員 教員・実習助手による評価)

【評価項目】27項目 (No.1～No.55)

【回答者数】73名/84名 回答率 87%

【課題】やや不十分、不十分の合計が20%を越えた評価項目

No.46 (施設・設備) 「教育活動に必要な施設・設備は充実しているか」  
やや不十分 32%、不十分 8% 計 40%

NO.47 の自由記述でもわかるように教室不足が大きな課題である。特に特別教室の不足や特別教室等の調整も多く授業に支障を来している状況がある。

今年度は沖縄ろう学校の理科教室を週1回借用したことで、生徒の教科学習の動機付けにもつながった。

教室不足の対策として、これからも県立学校教育課とのワーキングチーム会議や県教育庁総務課や施設課等とも情報共有しながら対応していく。令和10年度に中部に特別支援学校設置が計画されており、学校規模の適正化は図られる見込みであるが、それまでの間の対応については課題である。

【課題】やや不十分、不十分の合計が10%を越えた評価項目

NO.32 (自立活動)

「自立活動に関する支援体制や教材教具の工夫、ICT機器の活用、各教科との関連など共通理解が図られ教育実践が行われているか」

やや不十分 11%、不十分 1% 計 12%

今年度より校務分掌の中に「自立活動」を置き、自立活動部を中心にアセスメントや流れず作成ミニ講座を持ち、教員の専門性向上につながっている。教材・教具の作成に時間を確保するのが難しいとの声もあることから、教材・教具についての情報共有や授業づくりについては引き続き情報発信できるようにしていく必要がある。

(事務・現業部職員による学校評価)

【評価項目】24項目

【回答者数】11名/13名 回答率 85%

特に課題とされる項目はない。

### 3 外部アンケート

#### (1) 保護者アンケート

【評価項目】24項目

【回答者数】77名/147名 回答率 52%

【課題】やや不十分、不十分の合計が10%を越えた評価項目

NO.23 「子どもは、図書室等で読書活動を楽しんでいる」  
やや不十分 9%、不十分 3% 計 12%

各学部における読書活動や図書室の利用状況等について「図書だより」やホームページ等での周知を図るなど保護者や地域に対して広く情報発信に努める必要がある。

#### (2) 児童生徒アンケート

【評価項目】13項目

【回答者数】65名/151名 43%

【課題】やや不十分、不十分の合計が10%を越えた評価項目

NO.6 「先生に気軽に相談できる」 やや不十分が11%

相談しやすい雰囲気作りを意識していけるよう職員会議で職員に周知した。

NO.11. 「学校で友達や先輩後輩にいじめられたことはありますか」

「ある」の回答が11件あった。

本校では、教育相談週間を年2回(5月と9月)を設けて、いじめに関するアンケートを実施している。そこで挙げられた事案に関していじめ防止検討委員会で情報共有しながら対応している。引き続き、校訓の「友愛」(友だちや周りの人との関わりを大切にして、平和を愛し、仲良く助け合える子を育む)の実現を目指して指導の充実を図っていく。